

「平成29年度 第2回大月みらい協議会」

会 議 概 要

日 時 平成29年7月5日（水）午後7時から午後9時まで

場 所 大月短期大学 会議室

出席者 委員20名（1名欠席）

小笠原則雄、長田弘、小俣理美、梶原崇照、小池幹彦、三枝良光、佐々木啓吉、
佐藤茂幸、志村淳、志村賢二、庄司有紀、白川太、鈴木昌則、中島啓介、
仁科美芳、福嶋尚美、三木範之、武者稚枝子、山口明秀、渡辺勝

【事務局】 兼子総務部長、石井企画財政課長、井上地域活性化担当リーダー、榎本、堀内

1. 志村議長あいさつ

皆さんこんばんは。大月みらい協議会の会議を、大月短期大学の新しい校舎で開催することが出来まして、タイミング的に本当にありがたいことだと思っております。

一つご報告があります。本日の会議の準備に当たり、資料作成において、佐藤副議長に大変なご苦勞をおかけしました。佐藤副議長はいろいろなところでご活躍をされておりました、お忙しい中、本日の資料を作ってくださいました。本当にありがとうございました。今夜も皆で頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。

2. 議 題

（1）平成29年度第1回会議概要について

- ・平成29年度第1回会議概要の市ホームページへの公開について承認された。

（2）大月みらい協議会の今後の進め方について

- ・志村議長より、6月7日に打合せ会を開催し、志村賢二委員、白川太委員、中島啓介委員、仁科美芳委員に出席していただいたとの報告があった。その中で、今後の進め方については、ワークショップを実施した方がよいということとなった。
- ・そのことを踏まえ、志村議長から、ワークショップの実施について提案があり、承認され、実施することとなった。

●ここから、進行が志村議長から佐藤副議長に代わり、今後の進め方及びワークショップの進行について説明があった。

【佐藤副議長】

皆様、あらためましてこんばんは。そして、ようこそ。新しい大月短期大学の校舎へお越しいただきありがとうございます。

志村議長からご案内があったとおり、6月7日に打合せ会を行い、ご紹介のあった5名の委員の方と一緒に、今後の進め方について議論させていただきました。そこで、一つの進め方を見出すことが出来まして、それを私の方でワークショップという形でやっというように思っております。今日あるいは次回以降の進め方も含めて、簡単に、今後の進め方についてお話しさせていただこうと思います。

■今後の進め方について

まず、前回、第1回会議のときに、大月ふるさと教育について、石井市長様、小泉教育長様からお話をいただきました。そしてその後、皆さんからふるさと教育について、いろいろな考えをお話いただいたということが前回までの会議でありました。

今日はそれを再確認させていただいた上で、この後、グループに分かれて、「問題特定シート」を各グループで作っていただくかなと思っております。大月のふるさと教育を進めていくためには、何が問題なのか、何をすべきなのかということはこのシートに作っていただくことが、今日私たちがやるべきこととなっております。この問題特定シートを全部で10個くらい作っていただく予定です。

これは次回以降の話になるのですが、大月みらい協議会の今後の進め方としては、この問題特定シートを企画財政課あるいは教育委員会に提示をさせてもらおうと考えています。そして、それを見て、市と教育委員会が、「是非、大月みらい協議会にこういうことをやってほしい」、「これは確かにそうだ」というような確認をしていただいた上で、場合によっては次回意見交換会を実施し、10個程度の問題特定シートを全部はできないと思いますので、教育委員会と大月市で絞っていただきます。優先順位を市と教育委員会の方で決めてもらおうかなと考えております。そして、優先順位を決めたものについては、実証実験を行ってみる、あるいは企画してみるということで、大月みらい協議会の中でやってみたらどうかということをお6月7日の打合せ会において確認いたしました。この部分は、まだまだ進めていく中で軌道修正していく可能性は高いと思いますが、実証実験という中で、「企画を立ててみよう」、場合によっては「モデル事業としてやってみよう」という方向性をここで示させていただきたいと思っております。この進め方については、実施していく中で、臨機応変に変わっていく可能性は高いですが、まずは、問題を特定した上で、教育委員会に提出するというところまでは、この場で皆さんのご了解をいただきたいと考えております。全体の流れとしてはこのような流れになります。

■ふるさと教育の基本理解と捉え方について

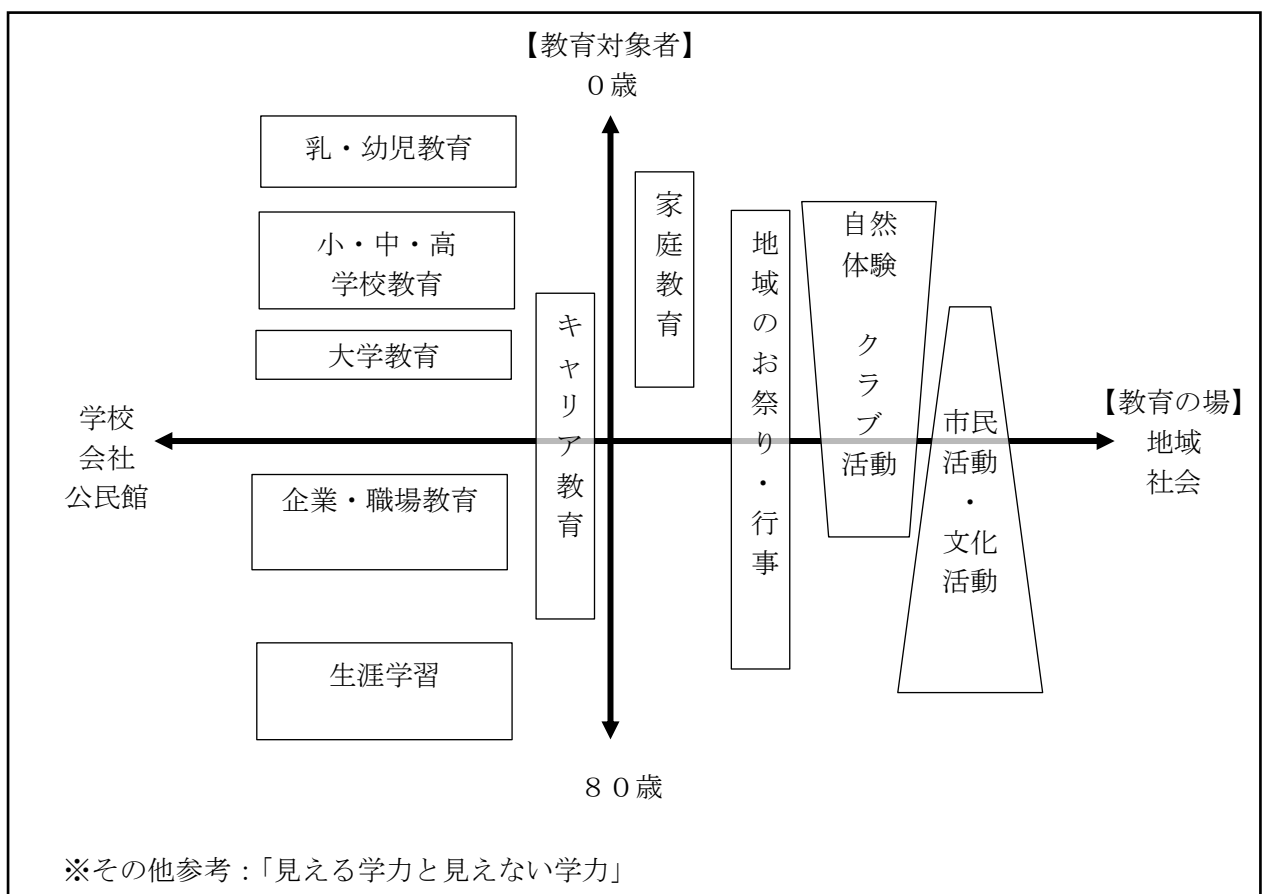
次に、細かい話をさせていただきます。ワークショップに入る前に、大月市が考えているふるさと教育について、再確認をさせていただきたいと思っております。前回の会議で、石井市長、小泉教育長のお話を通じて、私の中で確認できたことが2つあります。1つ目の気付きとしては、大月のふるさと教育はこれだというものがないことが分かりました。市で

は、イメージはあるのですが、定義的なものがあるわけではないということでした。そして、2つ目の気付きとして、それを踏まえて皆さんから意見を聞いたときに、皆さんの持つバックグラウンドの中には、ふるさと教育についていろいろな思いや考え方を持っていて、1つや2つに絞ることが中々難しいということが分かりました。従って、大月みらい協議会の中で、1つにまとめるということではなくて、いろいろな意見を出しながら、それを市の方で選んでもらうことが良いのではないのかということが、今回の進め方の根本にあります。

そのようなことを前提に、大月ふるさと教育について、もう一度確認をしていきたいと思えます。まず、前回の会議で、小泉教育長が、3つの基本理念を挙げられていました。1つ目に、人材像として、「ふるさとへの愛着と誇りを持った人材を育てていきましょう」ということです。これは一つのゴールでもあります。そして、それをどうやって育てていきましょうかということなのですが、「地域ぐるみで育てていきましょう」ということをおっしゃっていました。そしてそのようなことを通じて、教育目的として、「将来の大月市を支える人づくりをしていく、地域づくりをしていく」ということをおっしゃっていました。

基本理念としてこれで良いのではないかと思いました。そのようなことを前提に、前回の会議で皆さんからいろいろな意見を聞きました。それを以下のとおり、ふるさと教育の領域ということで整理させていただきました。

【ふるさと教育の領域（佐藤副議長私見）】



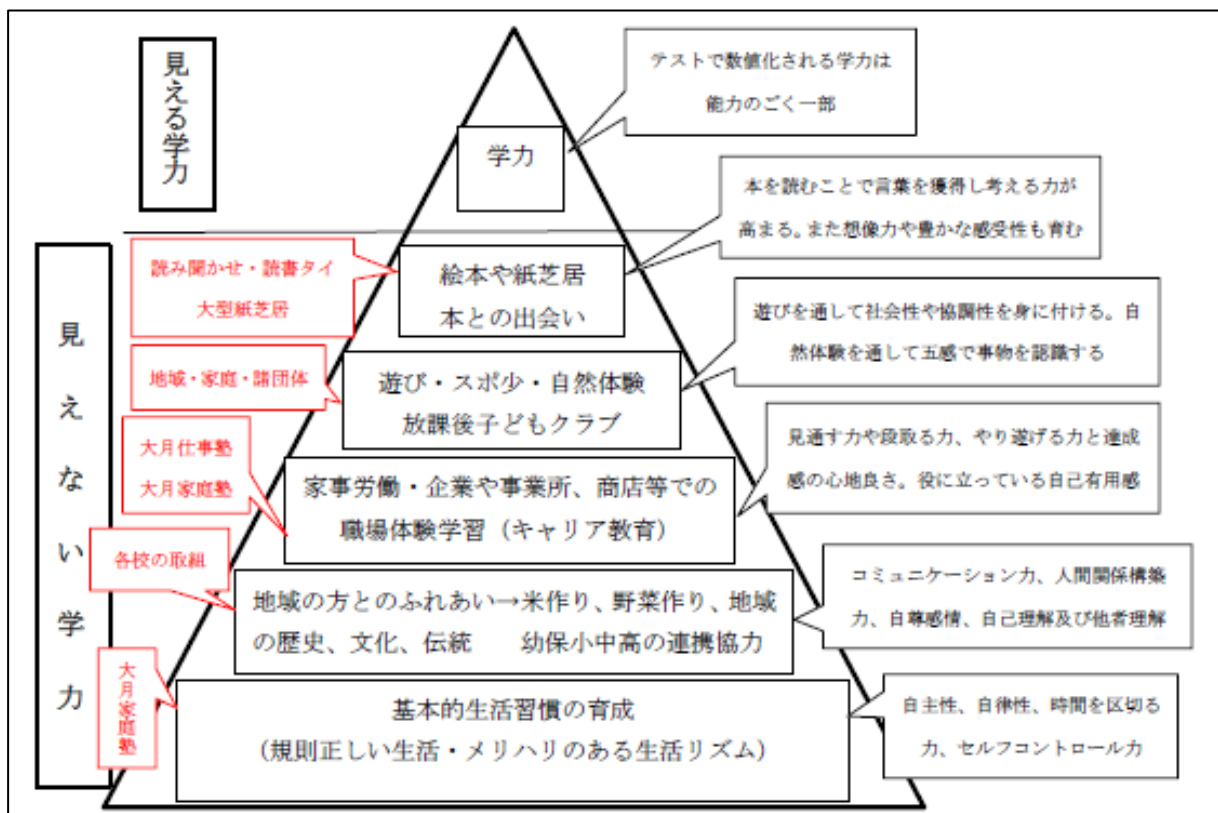
これを見てみると、何でもふるさと教育につながっていくのかなと感じました。これは私の整理なので、違う整理の仕方があるのかもしれませんが。

ここで確認していただきたいことは、ふるさと教育は、幅が広く、領域が広いということです。例えば縦軸では、ふるさと教育は誰に施していくのかという軸になります。年齢できっていて、0歳児から始まって、乳幼児、小中学生、高校生、大学生、そして我々大人という軸になっています。横軸では、教育の場として整理させていただきました。左側は、学校、会社、公民館等、特定の場を想定しています。そうしますと、左上のところは、ふるさと教育の大きな実践の場である、幼稚園、保育園、小中学校、高校となります。それ以外でも右側の地域や社会の場においても、例えば自然体験や市民活動、お祭りというところもふるさと教育の場になってきます。

このように、いろいろな場所で、いろいろな局面でふるさと教育が行われていて、私達、大月みらい協議会は、どこに問題解決策を提案していくのかということが問われていると思います。そこに皆さんの思いがあり、そこをどうしていくのかということが、大月みらい協議会の大きなテーマになるのかもしれませんが。

先日、小泉教育長から資料の提供がありました。その中で、学力には、「見える学力」と「見えない学力」があるようです。

【小泉教育長提供資料 見える学力と見えない学力（岸本裕史「教員」）】



この図によりますと、いろいろな教育が地域で取り組まれています。ふるさと教育というのは、むしろこの「見えない学力」の上に根ざしていると示されています。学力の部

分については、小・中・高、場合によっては大学における文部科学省が推奨している領域なのかもしれません。その根底には、礎となっているふるさと教育があるということだと思います。それぞれの領域を下の方から言うと、基本的な生活習慣の領域、地域の方々のふれあいや地域の歴史、文化、伝統の領域、あるいは職場体験の領域、子どものクラブ活動の領域、本との出会いの領域というように整理がなされています。

先ほど私が整理した図も含めて、ふるさと教育の領域はかなり広く、どんどん増えていくものと思います。このような状況で、ふるさと教育をどう捉えていくのかということを経験していきくと、この会議自体がそれで終わってしまいます。大月みらい協議会はそのような場ではないと思います。何かやりましょう、何か企画を立てましょう、何か政策を提言しましょうという場であります。このようなことを念頭に置いた上で、話を進めていきたいと思っております。

■大月のふるさと教育の考える視点について（問題のありどころ）

それでは、私達大月のふるさと教育をどのようにしていくべきなのかということですが、その際に、私見ですが、考えなければいけない視点として、5つの視点があると思います。

まず1つ目として、教育を受ける人は誰なのかという視点があります。乳幼児であるのか、小中学生であるのか、場合によっては我々大人なのかということを考えなければいけません。

2つ目にそれを誰がやるのかという視点があります。先ほどの基本理念のところでは、地域ぐるみで行うとありましたが、地域ぐるみって誰なのかということも考えなければいけません。

3つ目に、学ぶべきは何か、ふるさとの何を学ぶのかという視点があります。この部分も考えなければいけません。

4つ目に、どのように学ぶのか、学びの仕掛けはどうするのかという視点があります。これは実際の政策の中身に入っていくのかもしれませんが。

5つ目に、教育の目的は何か、地域活性化への効果は求めるのかという視点があります。最終的に人づくり、地域づくりをして、人口が減少する中で大月をいかに活性化していくのかということになっていきますが、それを教育と結びつけていくのかという議論もあったかと思えます。教育とは、そもそもそういうものではないという意見もありました。この部分も明確にする必要があるかと思えます。

■ワークショップについて

前回の皆さんの話を通じて、以上のように整理をさせていただきました。ふるさと教育について風呂敷を広げてみました。この風呂敷をどうやってまとめていくのかということが今日からの話です。その1つの手法として、ワークショップを行うということであります。ワークショップは、以下の手順で進めていきます。

1. WSの目的とゴール

- 1) 各委員が自由にバランス良く意見を発言し、創造性が発揮できる雰囲気や関係性を作る。
- 2) 「ふるさと教育」に関して私たちが抱く地域の問題を議論し、これを9つ程度の「問題特定シート」としてまとめる。
- 3) この「問題特定シート」を大月市（企画財政課、教育委員会）に提示し、後日において、本格的に検討すべき課題を絞り込んでいく。

2. WSの形式とテーマ

5～6名程度からなるグループを作って議論をする。グループ数は3～4つ程度にする。

3. WSの進め方

1) 問題のリストアップ

- ・各自で、ふるさと教育に関わることで「解決すべき問題は何か?」を、ポストイットに書き出す。書き出すテーマは類似内容も含めて2～5件ほどあげる。

2) 役割分担

- ・グループの役割分担として、進行役と書記役を決める。そのうえで、グループ討議を開始する。

3) 情報共有

- ・各自がポストイットに書き出した「解決すべき問題」をグループのなかで披露し合う。

4) 問題の整理と課題の設定

- ・共通認識ができた段階で、ポストイットの整理・分類・再設定を議論しながら、問題を深堀していく。そのうえで、ふるさと教育の課題（解決アイデア）を明らかにする。明らかにする課題は3件程度に絞り込んでいく。

5) 課題特定シートの作成

- ・書記は、上記議論を3件程度の【問題特定シート】にまとめメンバーの確認を得る。

6) 全体発表

- ・1グループ3分程度で発表し、全体での共有化を図る。

7) グループ内の振り返りと宿題確認

- ・後日「問題特定シート」の提出方法を確認する。

●その後、佐藤副議長が進行役となり、グループ分けを行い、ワークショップを実施した。

(3) その他

- ・次回会議日程等

次回会議については、事務局が議長、副議長と調整し、各委員に通知にて案内することとなった。